



## 活用されてこそ磨かれる

### 建物の魅力と寿命

煉瓦倉庫は明治29年、絹産業が賑わっていた時代に、地元の銀行が担保として預かった繭を保管するために建設された倉庫です。銀行、紡績会社、洋菓子店などの変遷を経て、現在交流施設「旧本庄商業銀行煉瓦倉庫」として親しまれています。

煉瓦倉庫1階は交流・展示スペースとして使用され、持参したお弁当で食事をする人、読書をする人など、さまざまに利用されています。2階多目的ホールは貸出しており、展示スペースとしての利用や、ヨガ教室やカフェを開くなど使い道はさまざま。かつての繭の貯蔵庫は、市民が自由に利用できるスペースに生まれ変わりました。

煉瓦倉庫のリニューアルは「活用するための生まれ変わり」。積極的に活用されることで建物の魅力と寿命は延びていきます。リニューアルでは施設を未来へとつなぐために、50年後、

100年後の存続や改修を配慮して、取り外し可能な構造補強が行われました。これは、時代とともに変わっていく用途に対応し、また、将来より良い構造補強が開発されることを見据えたものです。今回、こうしたリニューアルが評価され、遺産としての価値を持つ建物等の保全や修復の優れた成果をユネスコが表彰する「ユネスコアジア環太平洋文化遺産保全賞」で、功績賞を受賞しました。

古い建物が今に残るのは、愛着を持って活用され続けてきたため。本庄まつりの際には煉瓦倉庫前で山車の叩き合いが行われ、ハロウィンイベントでは、ハロウィンの飾りつけや保育園児の書いたイラスト展示が行われました。街のシンボルとしてだけでなく、多くの人に利用されることが、今後も煉瓦倉庫があり続けるために欠かせないことなのです。

## 街の風景を守る住民力

国道462号線から中山道へ向かい東へ400m程進むと、3軒の蔵が左手に立ち並びます。市民団体「本庄まちNET」では、平成22年に蔵のある街並みを残そうと、「本庄・宮本蔵の街」保存再生活動に取り組み、現在3つの蔵がそれぞれ事務所やカフェとして活躍しています。

この宮本蔵の街は、以前酒問屋の小森商店が本庄支店の蔵として利用していたものです。小森商店の閉店に伴い、この土地が手放されることとなったため、歴史的価値の高い蔵を残そうとプロジェクトを立ち上げました。跡地利用計画を立て、銀行の融資を得て土地の取得ができたことか

ら、現在それぞれの蔵が活用されています。

今後も、市内の古い建築物の調査・資料整理を進め、これらを活用して良い街にしていくと考えられています。私が使用している一の蔵は、事務所としての利用のほか、大学のゼミやまちNETの会合などでも利用されています。

隣の二の蔵でも、カフェの営業のほか、街のイベントや講座で利用されるなど、市民活動拠点としての役割も果たしています。

こうした古い建物を含め、くらしの中にある建物や風景での経験が記憶に残り、愛着に繋がります。良い思い出が残せる場所を少しずつ整備していければ、生活に根差した街がつけられていくのではないかと思います。



本庄まちNET  
戸谷正夫代表



手前から一の蔵（明治12年）、二の蔵（明治22年）、一番奥に煉瓦造りの三の蔵（大正10年）が建つ

## 文化も建築も、人の想いが支えている

養蚕で栄えた街の面影は、年月の経過とともに徐々に失われつつあります。でも、養蚕文化を途絶えさせないよう今も蚕を育て続ける人、織物を作る人、それを未来へつなごうとする人に支えられ、文化の灯は絶えることなく今に残されています。そして、明治の風景を後世に残そうと、煉瓦倉庫や古い建物を活用しようという取り組みもあり、これからも未来へ引き継がれていきます。

今も本庄には、明治から続く繭に関わるそれぞれの物語があります。今回のインタビューで見えてきたそこにある願いは、これまでの歴史を途絶えさせず、未来へつなげたいという共通の想いでした。さまざまな形で繭に関わる人たちの物語が、一本の糸のように縊り合さり、今の本庄市を作り上げています。この街の文化と歴史を次の時代に残していくために必要なのは、一人ひとりの「想い」なのかもしれません。



### 日本庄商業銀行煉瓦倉庫

開館時間 午前9時～午後7時  
●多目的ホールの使用  
使用料 1時間あたり400円～  
利用の目安 70名  
利用申込 施設内事務所で利用申請書を記入し提出